



# スゴイ写真!メヅラシイ文章!

ワールドツアー・プログラム

世界の花形邦人Y・M・Oの  
「日和見と昌険と反省」の

## 国際画報!!

YELLOW MAGIC ORCHESTRA WORLD TOUR '80

## 表面の背後

1922年、トロツキーがタトリンを批判し、ペヴスナーやガボたちが西ヨーロッパに去った年、その前年のロドチェンコの《黒》のモノクローム、タトリンの《ローズ》のモノクロームに継ぐかのようにマレーヴィッチは、何も描かれていない白いキャンバスを2点天井の下につるした。この時、すでにわれわれはクレメント・グリーンバーグの意見に耳を傾けようと傾けまいとキャンバスにおけるあらゆるイリュージョンは放棄されていたのである。イリュージョンの消去作業を、意味の不在としてでなく、意味する不在として取り扱うこと、そして何よりも表面の抑圧のひとつの歴史的形式であった平面に代わって《表面》におけるもうひとつの背後にある存在、意味作用を成立させること。とは言ってもわれわれは、その1922年以來、両者がもたらした彫而上学的ないし、存在論的意味の附与における混乱した議論から今だに抜け出せていない。完璧なまでのイリュージョンの消去が到来したであろうフォーマルで、豊かな意味の生産をもたらす新しい装置をわれわれは今も知らない。これまでの消去作業に伴うデカルト的等位システムの文化機構への脱却は、もはやただ、ただ、イデオロジカルなジェスチュアを許容するのみである。





## 機械の教育的ディスクール

この都市では、彼の望むユートピアの引換は、アンチ・ロゴスの相の下に補償されることとなる。迷宮と彷徨のなかで彼は、——調子を狂わせた機械の聖木こそが宇宙の事象的な軸に群起されていくのを知るであろう。

彼の内臓は、機械部品へと移行する。しかし、にもかかわらず、器官なき肉体との平協の結合は、もはや果たされることはないだろう。器官なき肉体——独身者の拒絶は、ユートピアの目を存続させることのできる時間の相関性に破壊を生じさせてしまうからである。ここには、すでに真の理想などあり得ない。そこには、肉体を分解し、あるいは統一する至高の原理であるオルガニスムの否定による調子を狂わせた独身者=機械だけが残されるのである。おそらく、Entelechyなイマージュの強迫観念は、この時にエロスの母型（マトリス）であるタナトスの下に保障される。タナトスの機械はオルガニスムを拒絶したく（独身者の機械）を支配するものなのである。そしてまた、〈花嫁の機械〉をも支配する。なぜなら、独身者の拒絶は男女双方に共通の狂いを生じさせるからである。内臓器官に分解され、さらに機械の部品へと解体された非相合な独身者の機械に意志と肉体を与えるものは、神の抗を叩いている〈花嫁〉であり、欲望の相関性と思考の相関性、さらに「枝の統一」を求めて結局はまた「枝に分かれる」二重性を具現させるのは〈独身者〉だからである。そしてそれら両者を繋げるものは、知識となった欲望のなかにあるだろう。すなわち、自由思想学校から導かれる階層の中の想像的機能と草率的機能によるものとである。おそらく欲望から透視力であるとすれば、千里眼は想像力によって変形された偏愛偏的な視察手段によるものであろう。Entelechyは、透視の条件である。Entelechyな視力は、知識のみならず創造である。おれおれの眼差しはEntelechyなオブジェを変更する。つまり、おれおれの見るものは、*brilliant*の欲望のイメージであるということである。（註-2）階層の中の機械=欲望の機械という工場。それは、あらゆるロゴス体に対する抗の念を傾けながら、絶対的距離（Charles Fourier）とともにやってくる〈器官なき肉体との平協の結合〉を約束するのみである。

鈴木 浩二

（註-1）清水 徹・宮川 淳（エッセイ）

（註-2）*Opticus* par. (water writes always in plural)

Y-M-O WORLD TOUR '80

- Oct
- 1 Wed Equipment & Lighting staff  
Lv. Tokyo/BA008 12:15  
(Ar. London 19:20/2nd)
  - 2 Thu Japanese Crew  
Lv. Tokyo/BA006 21:30  
(Ar. London 06:15/3rd)
  - 3 Fri Y-M-O Group — by bus —  
Lv. Alfa Office 17:30  
Lv. Narita/JAL421 22:30  
(Ar. London 16:55/4th)
  - 4 Sat Y-M-O Group arrives in London
  - 5 Sun Rehearsal in London
  - 6 Mon Rehearsal in London
  - 7 Tue Rehearsal in London
  - 8 Wed Rehearsal in London
  - 9 Thu Rehearsal in London
  - 10 Fri Rehearsal in London  
"L" Stage  
Shepperton Studio Center
  - 11 Sat Oxford-NEW THEATRE  
(Capacity-1,692)
  - 12 Sun Birmingham-ODEON  
(Capacity-2,397)
  - 13 Mon Manchester-APOLLO  
(Capacity-2,650)
  - 14 Tue Travel to London
  - 16 Thu London-HAMMERSMITH ODEON  
(Capacity-3,483)
  - 18 Sat Southampton-GAUMONT  
(Capacity-2,165)
  - 19 Sun Ferry to Europe
  - 20 Mon Hamburg-MARKTHALLE  
(Capacity-approx. 1,000)
  - 21 Tue Rotterdam-DE LANTAREN  
(Capacity-approx. 450)
  - 24 Fri Stockholm-GOTA LEJOM  
(Capacity-approx. 1,300)
  - 27 Mon Paris-LE PALACE  
(Capacity-1,200)
  - 29 Wed Milan-THEATRE ESMERALDO  
(Capacity-1,200)
  - 30 Thu Rome-THEATRE OLYMPIO  
(Capacity-approx. 1,200)
- 26
- Nov.
- 3 Mon Equipment leaves Rome  
Y-M-O & Crew pick up US visas  
(H-type)
  - 4 Tue Y-M-O & Crew leave Rome
  - 5 Wed Y-M-O & Crew arrive in L.A., USA
  - 6 Thu Rehearsal at A&M Sound Stage  
(=Chaplin Memorial Studio)
  - 7 Fri Satellite Transmission from A&M  
Chaplin Memorial Studio
  - 8 Sat Los Angeles-HOLLYWOOD PALLADIUM  
(Capacity-approx. 3,000)
  - 10 Mon San Francisco-KABUKI THEATRE  
(Capacity-approx. 1,200)
  - 14 Fri New York-PALLADIUM  
(Capacity-approx. 3,500)
  - 17 Mon Y-M-O Group leaves U.S.A.
- Dec.
- 24 Wed Tokyo-BUDOKAN
  - 25 Thu Tokyo-BUDOKAN
  - 26 Fri Tokyo-BUDOKAN



STAFF

ALFA  
Shoro Kawazoe Executive Producer  
Kazusuke Obi Assistant to  
Mr. Kawazoe  
Keiko Hida Production Secretary

Y-M-O Management  
Hiroshi Okura (for Yoroshita Music)  
Yoichi Itoh (for Yoroshita Music)

Japanese Crew  
Motoyuki Watanabe Stage Manager  
Ryoichi Hashimoto Sound Operator  
(Front)  
Kenichiro Kondo Sound Operator  
(Monitor)  
Osamu Yamada Stage Producer  
Jun Nagata Band Crew  
(Equipment Technician)  
Tomoki Miyadera Band Crew  
(Assistant to Mr. Matsutake)  
Haruki Maruyama Band Crew  
(Equipment Maintenance)  
Mikio Honda Make-up & Hair

SPECIAL THANKS to American Crews  
Matt Leach Technical Director  
David Löwn Tour Manager  
Patrick Woodrooffe Lighting Director  
Steve Borges Stage Manager



HOTELS

Sheraton,  
19 Rue du Commandant  
75014 Paris.

(1) 260.3511



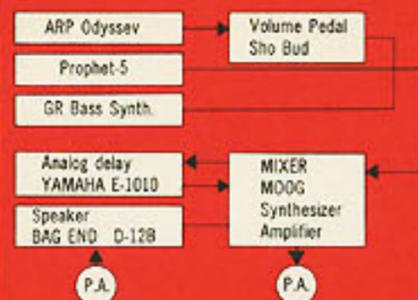
VENUE

Le Palace,  
Rue du Fa

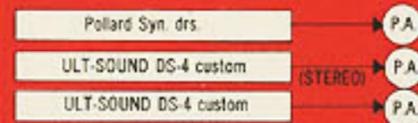
1. RIOT IN LAGOS
  2. THE END OF ASIA
  3. BEHIND THE MASK
  4. RYDEEN
  5. MAPS
  6. NICE AGE
  7. CORE OF EDEN
  8. CITIZENS OF SCIENCE
  9. LA FEMME CHINOISE
  10. SOLID STATE SURVIVOR
  11. RADIO JUNK
  12. KUNG TONG BOY
  13. TONG POO
  14. FIRE CRACKER
- ENCORE
15. COSMIC SURFIN
  16. 1000 KNIVES



#### HARUOMI HOSONO



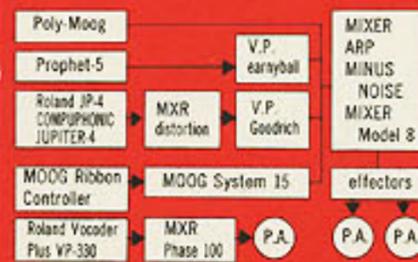
#### YUKIHIRO TAKAHASHI



#### TAMA drums

- Kick drum 22
- Floor tom 18
- Slingerland Snare Drum (14 x 6 1/2)
- TAMA Snare Drum (14 x 6 1/2)
- TAMA Tom Tom 13
- TAMA Tom Tom 12
- TAMA Timbals 13
- Paiste Hi-hat Cymbals
- A. Zildjian Cymbals

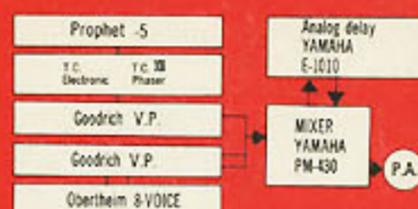
#### RIUICHI SAKAMOTO



#### Effectors:



#### AKIKO YANO

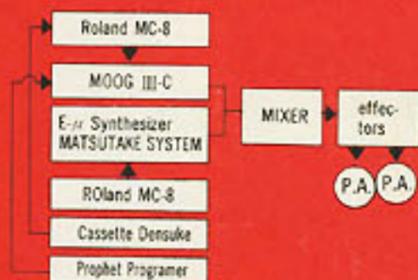


#### KENJI OMURA

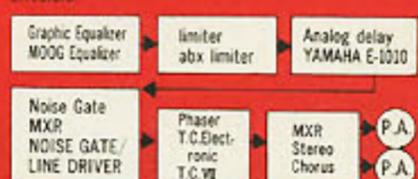


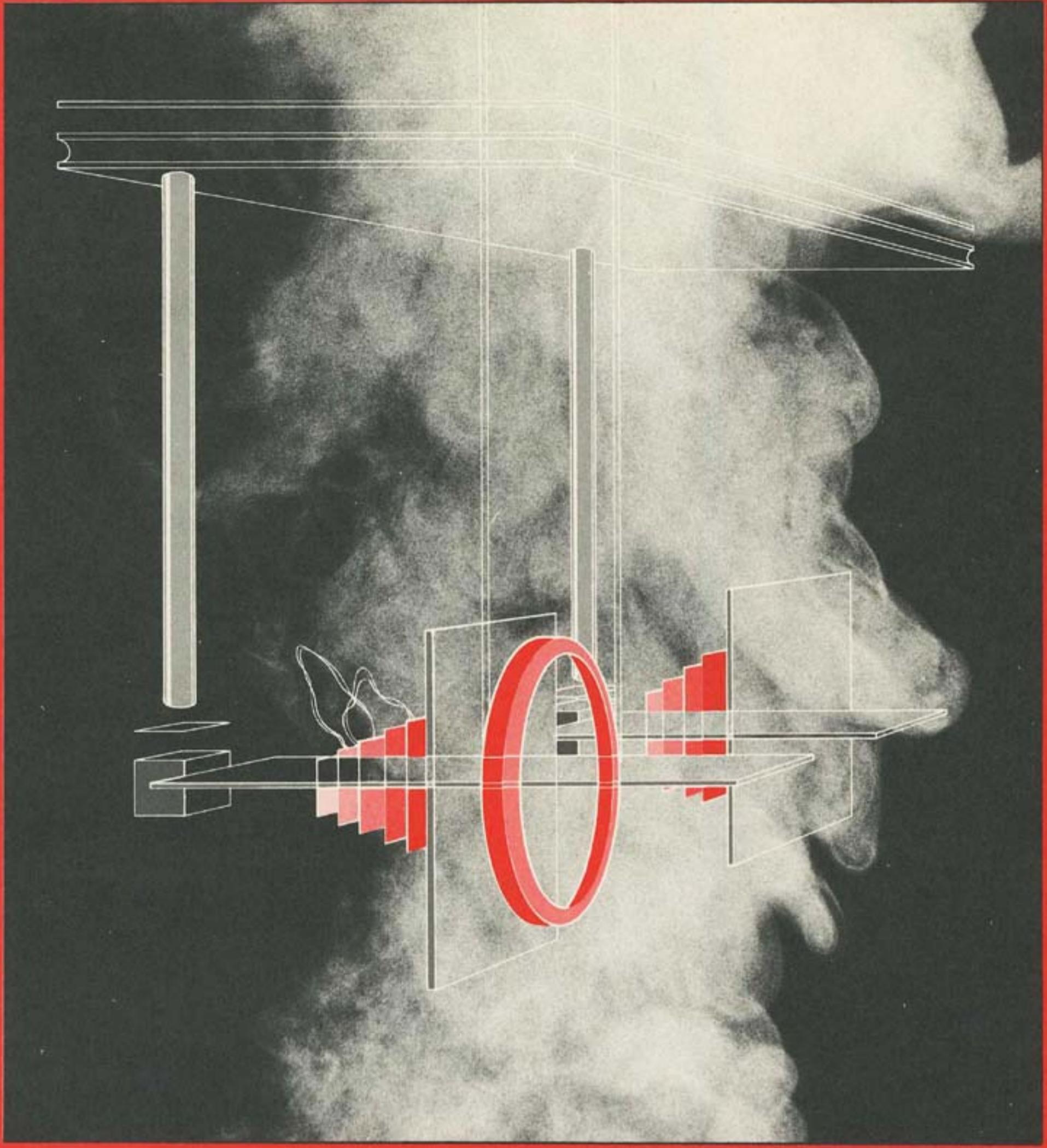
- Fender Stratocaster
- S. Duncan Stratocaster
- Fender Telecaster
- Gibson Les Paul

#### HIDEKI MATSUTAKE



#### Effectors:





## RIOT IN LAGOS

坂本龍一の作品でXTCのアンディ・パートリッジ、マトウンピのデニス・ボーヴェルが製作に協力した、坂本2枚目のソロ・アルバム「B-2 UNIT」から選ばれた。

「ラゴスはアフリカの中で一番モダンでありながら、都市ゲリラ、山岳ゲリラなどの活動が最も激しいところである。ナイジェリアの首都。アフリカという所と、その中で一番モダナイズされたところというニュアンスをとり入れてイメージをふくらませ、曲を作った。そしてRiotという言葉は、直訳すると暴動になるけど、僕も幸宏も細野さんも、好きなスライ&ファミリー・ストーンの名アルバムのこと頭にあった。

また、これは僕の曲には珍しくワン・コードでできている。何故そうしたかというと遊べるようにしたかったからで、自然発生的な演奏者の思いつき、やりたいことをやるという自由をとり入れたかった。

だからイントロなども長さは決まっていない」(坂本)

## THE END OF ASIA

坂本龍一の初のソロ・アルバム「千のナイフ」の収録曲で、Y・M・Oのアルバム「パブリック・プレッシャー」にロンドン・ヴェニューでアンコールの際に演奏したテイクが収録されている。

レゲエに影響された高橋のドラミングに、作曲家である坂本のバックイングがシャープにからみ、細野のベースが加わり、矢野顕子の尺八のような和風メロディーが何とも言えない感じで続いていく。

やがてそれは坂本とのかけあいになり、独

特なサビの後、彼のクールなソロへと続き、ジワジワとエンディングに向けて熱くなっていく。

「1年前とはアレンジ、音質感、リズム感とかが随分かわっている。以前はスカッぽい感じだったが、リハーサルの途中で急に「Riot In LAGOS」に共通するイメージを持つようになった。アフリカのR&Bっぽいリズムがすごく気に入っている」(坂本)

## BEHIND THE MASK

坂本龍一の作品で「ソリッド・ステイト・サヴァイヴァー」に収録されている。

「これも教授の作品ですが、1枚目のアルバムの直後に教授がCM用に作曲してあったもので、いちやくステージでとりあげていた曲です」(細野)

## RYDEEN (雷電)

高橋幸宏の作品。「ソリッド・ステイト・サヴァイヴァー」の収録曲であり、ライブ・アルバム「パブリック・プレッシャー」のオープニングも飾っているY・M・Oの当たり曲。

「全体の雰囲気は東映の時代劇にある街道ものや黒沢明の馬がでてくる戦闘シーンがぴったりです。そんなニュアンスをTVアニメの勇者ライディーンのイメージに置きかえるとグッと現代的になり、日本版スターウォーズです。パーカッションもピッコロも全てコンピューターが演奏しています。苦心した所は間奏のSEで、僕がコルグ・ポリフォニックの「ミュー」という音、教授がアープ・

オデッセイの「ビューン」というレーザー兵器の音で馬上の戦闘シーンを展開して行きます。よく聞くと馬のひずめの音もあり、これもコルグです。これらSEの音はQSを使用して位相をずらしてあるので、音が前面に飛び出して来ます。以上3曲は全て同じテンポの上になりたっており、コンピューターのデータ信号とガイドリズムを先に録音し、それを聞きながらドラムを入れていきました」(細野)

「曲の途中で細野さんと坂本君のエフェクティブなSEがあり、それが軽いあいさつがわりのソロへと移行していきます。快調なスタートのこのナンバー、後半のマイクロ・コンポーザーMC-8氏の奏する横笛も中々心地良く響きます」(高橋)

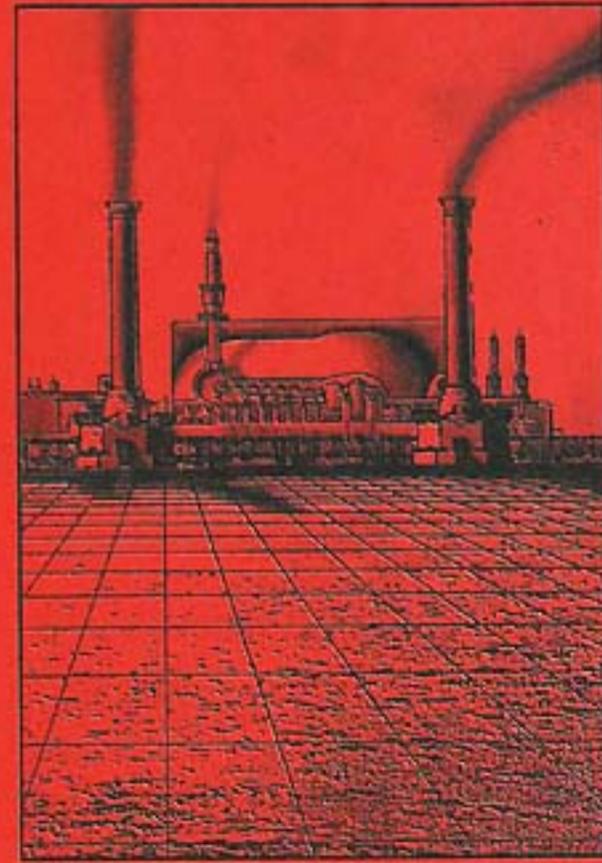
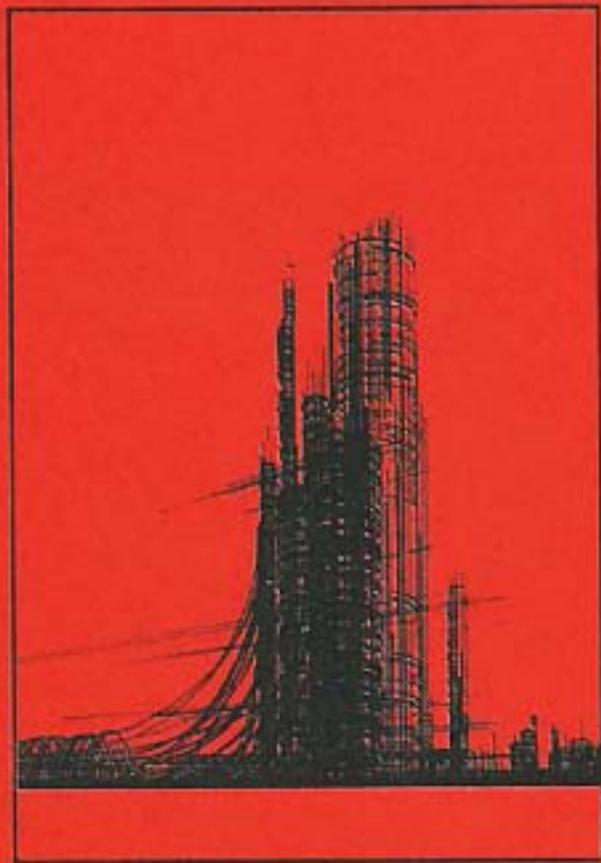
## MAPS

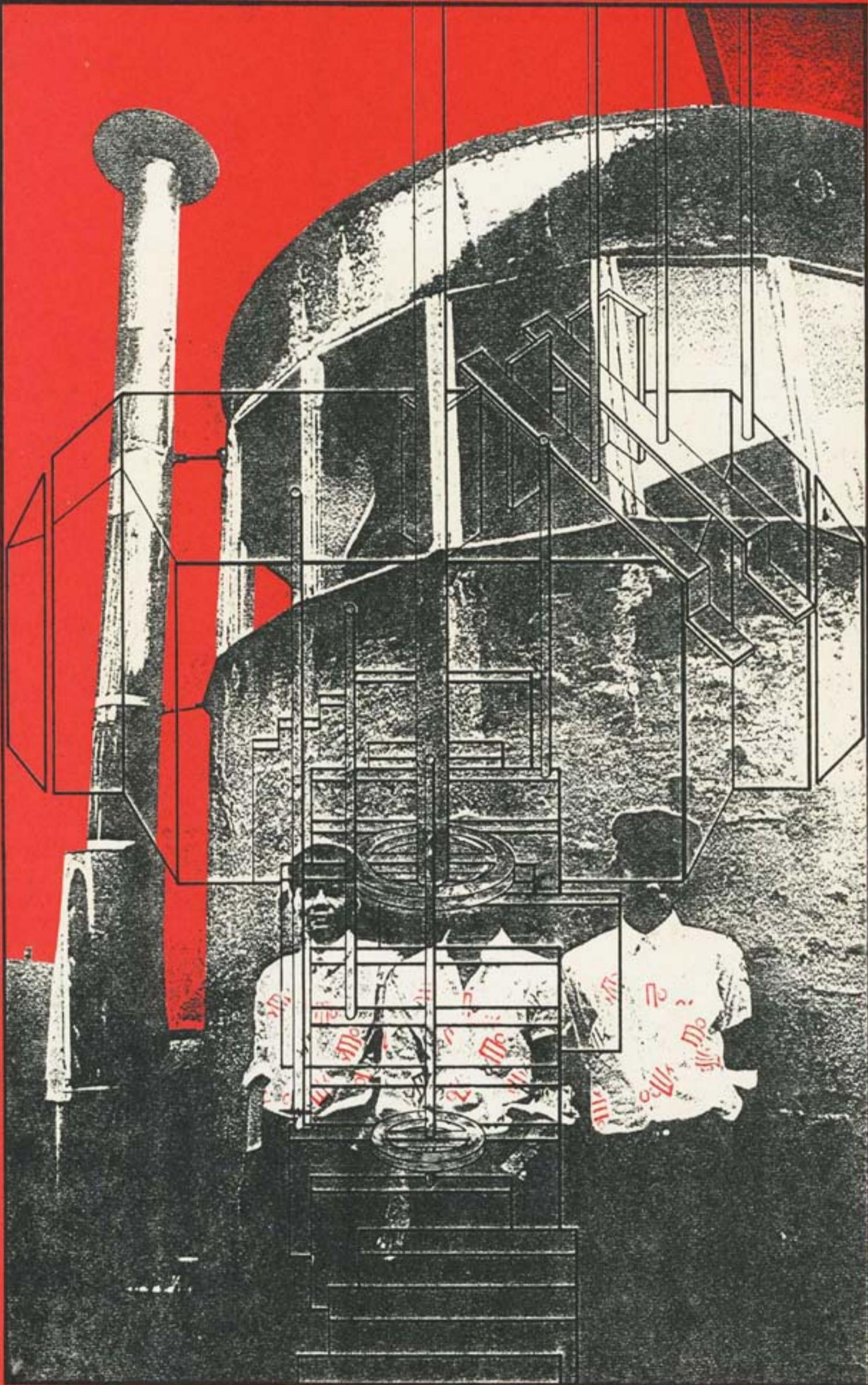
1981年2月21日に発売が予定されている大村憲司の2枚目ソロ・アルバムの収録曲で大村とクリス・モスデルが詞を書き、高橋が曲を書いた。

## NICE AGE

詞がクリス・モスデル、曲が高橋幸宏と坂本龍一によって書かれ、「増殖」に収録されて'80年6月に発表された。

「これはA&Mから「CITIZENS OF SCIENCE」とカップリングされて30cmのシングルが出る。イギリス公演でも反応が凄かった。イントロになるとちょっとわく。曲はハッピーだけど、歌詞はそんなにハッピーじゃない」(坂本)





企画構成	Y・M・O 立川 直樹 秋山 道男 奥村 靱正 鈴木 浩二
編 輯	秋山 道男
意匠構成	奥村 靱正
意 匠	伊丹 友広 金井 広美 白木 一誠 河田 純
建築図譜	鈴木 浩二 鈴木 由美
海外撮影	鋤田 正義 三浦 憲治
国内撮影	河野 千年 三浦 順光
編輯協力	清水 宏美
制 作	The Studio TOKYO, JAPAN.
印 刷	大日本印刷株式会社
発行者	大蔵 博
発行所	株式会社ヨロシタミュージック 〒107 東京都港区赤坂9-5-26 赤坂ハイツ203号 電話 03-405-4191
協 力	糸井 重里 Plan・Net・Wark CO.,LTD. 明石 昌雄 中野 翠

番

'80  
12.25(土)  
日本武道館

●開場5:30PM  
●開演6:30PM

- 主催/株式会社ヨロシタミュージック
- 企画・制作/Y・M・Oオフィス
- 後援/アルファレコード株式会社
- 協賛/富士写真フイルム株式会社  
日本航空株式会社
- コンサートマネージメント  
/SDD

S

¥3,800

S

¥3,800

●問い合わせ/TEL.03(479)2100

YELLOW MAGIC ORCHESTRA WORLD TOUR '80 TOKIO TOKYO

番

'80  
12.26(日)  
日本武道館

●開場5:30PM  
●開演6:30PM

- 主催/株式会社ヨロシタミュージック
- 企画・制作/Y・M・Oオフィス
- 後援/アルファレコード株式会社
- 協賛/富士写真フイルム株式会社  
日本航空株式会社
- コンサートマネージメント  
/SDD

S

¥3,800

S

¥3,800

●問い合わせ/TEL.03(479)2100

YELLOW MAGIC ORCHESTRA WORLD TOUR '80 TOKIO TOKYO

番

'80  
12.27(月)  
日本武道館

●開場5:30PM  
●開演6:30PM

- 主催/株式会社ヨロシタミュージック
- 企画・制作/Y・M・Oオフィス
- 後援/アルファレコード株式会社
- 協賛/富士写真フイルム株式会社  
日本航空株式会社
- コンサートマネージメント  
/SDD

S

¥3,800

S

¥3,800

●問い合わせ/TEL.03(479)2100

YELLOW MAGIC ORCHESTRA WORLD TOUR '80 TOKIO TOKYO